

貴重種情報の取扱注意

第12回 長安口ダム
環境モニタリング委員会

資料-4

今後のモニタリング調査及び 環境モニタリング委員会 [概要版]

令和4年2月

国土交通省四国地方整備局
那賀川河川事務所

モニタリング調査の継続の方針(案)

- ・工事に伴う影響が想定される洪水吐新設等の工事は終了し、令和元年度に洪水吐新設ゲートの運用、令和2年度に選択取水設備の運用を開始している。
- ・工事中の影響を把握するための調査は、工事終了にあわせて令和3年度に終了する。
- ・環境保全措置の効果がみられるラン科A等のモニタリング調査も、令和3年度に終了する。
- ・供用開始後の環境の変化を把握する水環境及び生態系典型性、生育個体数が目標を下回る植物のモニタリングについては、調査を継続する。

環境要素	対象項目	調査目的			モニタリング調査方針	R3年度実施	継続の必要性の考え方	R4年度実施(案)	
		①	②	③					
大気環境	騒音		●		工事に伴う騒音監視	終了	配慮の効果が認められ、影響要因もなくなる	終了	工事終了にあわせて終了
水環境	貯水池、下流河川の水質変化		●		工事に伴う水質への影響監視	終了	配慮の効果が認められ、影響要因もなくなる	終了	工事終了にあわせて終了
			●		下流河川における「冷水放流」や「濁水長期化」に対する選択取水施設運用の改善効果把握	●	継続して供用開始後の環境変化の把握が必要	●	R2からモニタリング調査及び評価開始
植物	ナンゴクウラシマソウ	●			移植後の生育状況監視	終了	自然状態の生育個体数が目標を上回る	終了	R1終了
			●		改変部付近の個体の生育状況監視	終了	影響要因の工事は完了(配慮の効果あり)	終了	H29終了
	ラン科A	●			移植後の生育状況監視	●	自然状態の生育個体数が目標を上回る	R3終了	モニタリング終了
	ラン科B	●			移植後の生育状況監視	●	自然状態の生育個体数が目標を下回る	●	保全措置(移植等)及びモニタリングの継続
	ラン科C		●		改変部付近の個体の生育状況監視	終了	影響要因の工事は完了(配慮の効果あり)	終了	H30終了
	ハルノタムラソウ		●		改変部付近の個体の生育状況監視	終了	影響要因の工事は完了(配慮の効果あり)	終了	H28終了

①環境保全措置の効果を把握するための調査 ②工事中の影響を把握するための調査 ③事業完了後の環境変化を把握するための調査

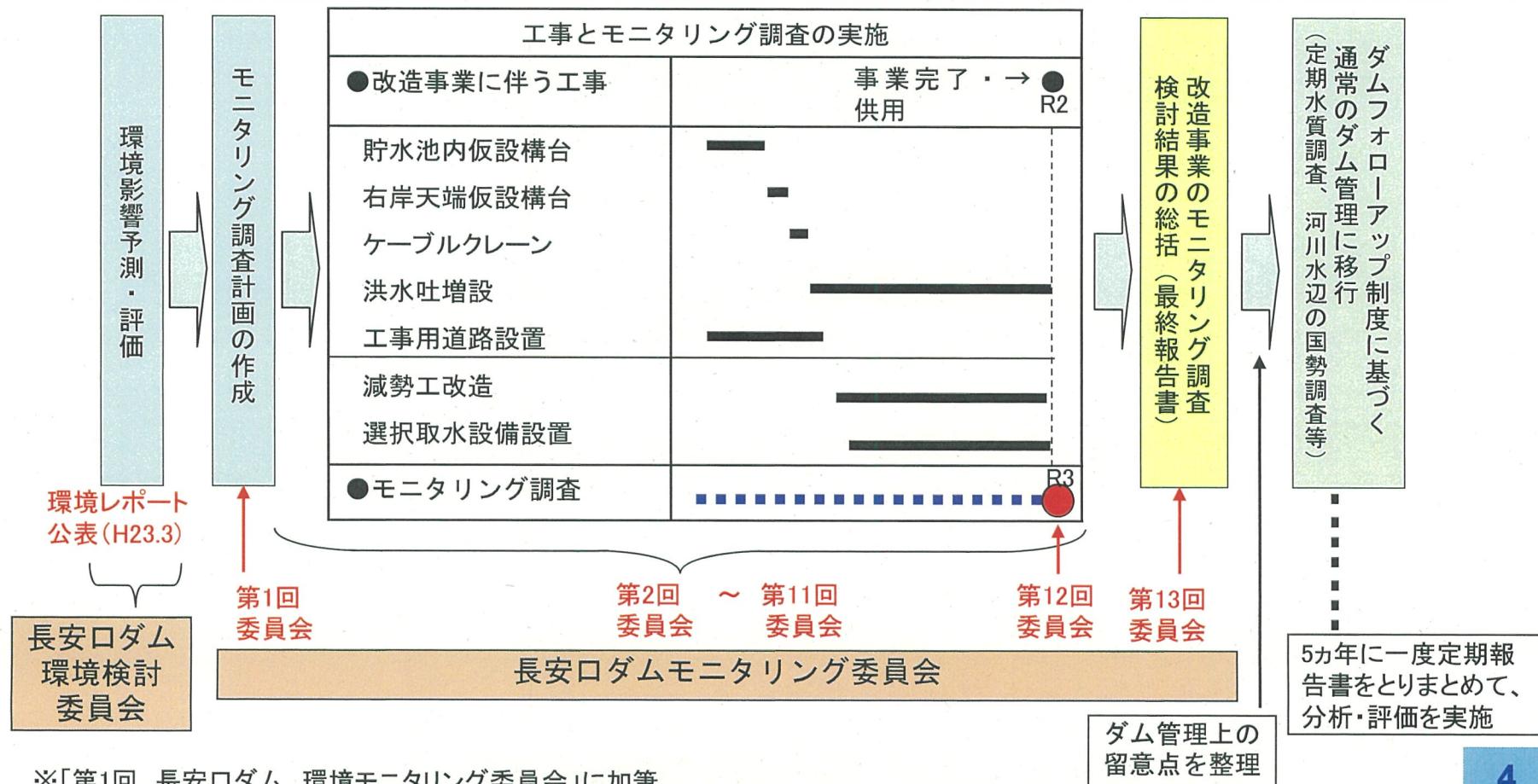
モニタリング調査の継続の方針(案)

環境要素	対象項目	調査目的			モニタリング調査方針	R3年度実施	継続の必要性の考え方	R4年度実施(案)	
		①	②	③					
植物	ナカガワノギク	●			供用前の現状把握	終了	供用前の現状把握をH24、H27、H30の3年間で終了	終了	H30終了
			●		ダム下流河川の個体群監視	●	供用開始後、生育状況に大きな変化はみられない	R3終了	モニタリング終了
動物・生態系	上位性 :オオタカ・サシバ・ハヤブサ	●			工事完了後の生息状況・繁殖状況把握	実施	影響要因(工事等)はなくなり、工事終了後2年間の調査を実施した結果、工事による影響は小さい	R3終了	モニタリング終了
		●			工事に伴う騒音に関する行動把握	終了	配慮の効果が認められ、影響要因もなくなる	終了	工事終了にあわせて終了
	典型性 :下流河川の魚類等	●			工事中に異常等がみられた場合の生物への影響監視	終了	供用前の現状把握をH28～30の3年間で終了 (魚類調査はR1実施)	終了	H30終了
			●		選択取水設備運用前後の魚類等の生息状況把握	実施	継続して供用開始後の環境変化の把握が必要	● 継続	R2からモニタリング調査及び評価開始
	ミゾゴイ		●		猛禽類調査時に確認できた場合、生息状況・繁殖状況把握	－	未確認	R3終了	猛禽類調査とあわせる

①環境保全措置の効果を把握するための調査 ②工事中の影響を把握するための調査 ③事業完了後の環境変化を把握するための調査

モニタリング調査及び委員会のスケジュール

- ・工事終了及び調査結果を踏まえ、モニタリング調査は、基本的に令和3年度をもって終了する。
- ・第12回モニタリング委員会では、令和3年の環境モニタリング調査の評価結果を審議いただいている。
- ・第13回モニタリング委員会では、平成23年度から実施しているモニタリング調査の検討結果を総括（最終報告書）して審議いただくとともに、ダムフォローアップ制度に基づくダム管理への移行に向け、フォローアップ調査の調査計画について、審議いただく予定である。



※「第1回 長安口ダム 環境モニタリング委員会」に加筆